

タイトル		Joseph had a little overcoat			
著者（文・絵）		Simms Taback			
出版年		1999	出版社	Viking Books for Young Readers	
翻訳版		『ヨセフのだいじなコート』木坂 涼訳、フレーベル館、2001 年			
総語数	182 語	ページ数	32 ページ	YL レベル	0.6
あらすじ					
この絵本の主人公 Joseph は、再利用の天才です。古びてきたオーバーコートを切ってジャケットに仕立て直します。そのジャケットも古くなったのでベストにし、その次はスカーフにし、ネクタイにし、ハンカチにし、ついに小さなボタンになります。そしてそのボタンをなくしてしまうのですが、Joseph はあきらめません。最後はどんなアイディアで「再利用」したのでしょうか。					
紹介					
皆さんは、自分の持ち物が古びてきたらどうしているでしょうか。近頃では何年か使っていないものは積極的に処分するべし、といった「断捨離」が提唱されていますが、修理して使ったり、何か別の用途で再利用したりすることもあるでしょう。古着の「再利用」というと貧乏くさいような、説教くさいようなイメージもあるかもしれませんが、この作品は明るいカラフルなイラストとテンポの良い流れで、次はどう変わるのかという期待感・ワクワク感を生んでいます。もともとユダヤの民謡（イディッシュ語のわらべ唄）を基にした絵本で、もとの歌も、軽快で明るい調子の歌です。古くなったものを仕方なく嫌々使うのではなく、楽しみながら再利用するプラス思考のメッセージとなっています。 著者もユーモアたっぷりに Joseph と自分の風貌が似ていることをあとがきに記しています。なお、舞台はポーランド、聖歌隊が歌っているのはユダヤ民謡のツンバラライカ、新聞にはラビの話など、イラストにはユダヤ文化・社会に関する言及がそこかしこにあります。そもそもユダヤ系の人々に仕立て屋が多いことも思い出されます。そういった異文化に関する理解を深めるにもぴったりの絵本です。 絵本のページには die-cut(切り抜き部分)があり、前のページと次のページで古コートが形を変えて引き継がれていくところがつながっています。これも脈々と続くユダヤ文化の継承を暗示していると解釈できるかもしれません。 2000 年コールデコット賞受賞作品。					
指導ポイント・授業活用例・学生の声など					
【注意すべき英語表現ほか】					
繰り返し It got old and worn という表現が出てきます。「着古された」が old and worn という 2 つの単語の組み合わせで表現されているところに着目。					

【授業活用例】

➤ ストーリーの予測 (Prediction)

授業では、途中まで一斉に読み(読み聞かせ)、一旦止まってストーリーの続きを考える prediction (予測) をしてもおもしろいでしょう(クライマックス、もしくはその前で少し前が効果的)。最後の機転がより際立ちます。Prediction の詳しい説明は、本 HP ページのアクティビティ欄をぜひご参照ください。

➤ ディスカッション

学生各自がどんなものをどう再利用しているか英語で話し合い、サステナビリティという近年重要度が増しているテーマに即した考察につなげてみましょう。ユダヤ文化についても紹介ができますが、学生自ら気づいて話し合いにつなげるには難易度が高いと考えられます。もともとなっているユダヤ民謡を聞かせ、教員から簡単な解説をするのがよいと思われます。

関連作品・参考 URL

本作品のもととなった曲が聴きたい人は、以下のサイトで視聴可能です(絵本のイラストがアニメーション化されています。)

https://www.youtube.com/watch?v=KZ37_s7X3jA

絵本がアニメーション化された読み聞かせは以下のサイトで見ることができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=lsJ0GtNzd2o>

(文責：小林めぐみ)